

# 顔 昼 浜

内田政子歌集

浜  
昼  
顔

内田政子歌集

〈著者略歴〉

- 昭和19年 5 月 群馬県群馬町に生まる  
昭和38年 3 月 高崎女子高等学校卒業  
昭和42年 3 月 群馬大学教育学部卒業  
昭和42年 4 月 埼玉県立鴻巣高等学校勤務  
行田商業高校・鴻巣女子高校を経て  
昭和58年 4 月 埼玉県立上尾南高等学校勤務  
昭和62年 6 月 子宮肉腫のため死亡，享年43歳

歌集 浜昼顔

---

昭和63年 3 月 1 日発行

著 者 内 田 政 子

発行者 内 田 賢 作

埼玉県北本市本町 6－105

---

(非売品)

浜昼顔  
目  
次

|        |       |    |
|--------|-------|----|
| 昭和五十六年 | ..... | 七  |
| 昭和五十七年 | ..... | 二七 |
| 昭和五十八年 | ..... | 三九 |
| 昭和五十九年 | ..... | 六二 |
| 昭和六十年  | ..... | 九六 |
| 昭和六十一年 | ..... | 九七 |

昭和六十二年……………一〇五

木の花匂ふ……………一二

合同歌集『蒼樹』より

重き腕……………二九

合同歌集『碧玉』より

作品評……………三七

〈追悼〉

扉カット・著者



浜  
昼  
顔





5.26

5.26



髪の毛の一筋頬をはなれざるごときいらだち  
も常のものなる

天性の娼婦かもしれぬとある時は赤き唇を拭  
ひとらせつ

\*1 (作品評参照)

あはあはとせんだんの花とけゆきて海辺の村  
に夕暮れ長し

海よりの風吹き出でて波のごと浜昼顔の白く  
なびかふ

息長く吹く練習か子供らのトランペットきこ  
ゆ五月の空に

アパートの二階に裸の男ゐて汗拭ふ見ゆ梅雨  
に入らむ日

ステージの君を見つむる寂び寂びと暗き客席  
に身を沈めゐて

忽ちに晴れゆけば人は田に出でていつせいに  
光る麦刈られゆく

霧雨の音もなく四囲を流るる時思ほへず郭公  
我が背より鳴く

植ゑし田も水張れる田も霧らひつつ一色となりて車窓を流る

ゆらぐ目のその底までも追はんとし非行生徒と半日むかふ

抗ひつ自己の非行に向きあふ子の涙の意味をしはしはかれり

己が非行述べ終へて涙にさし出せる手を握り  
つつなほも疑ふ

ほのぼのとねむの花咲く切り通し見上げつつ  
夢に君を尋ねき

暮れゆけば風紋影を深くしてとどろく海のわ  
れに来向かふ

李熟るれば李を吾に食はせんと母は来るなり  
来るたびに老ゆ

骨肉の甘えを避けきし我にして老いゆく母を  
寂しく去らしむ

沖遠くあらし行くらし雲早き夜空の星の今日  
さやかにて



ぼらを釣る夫と子の帽子折々は近寄りて何か  
物かたるらし

風やまぬ浜に仮設の舞台ありて夜にはひとが  
愛の歌うたふ

ほそぼそと雨降る稲田あかるくて遠く海辺の  
村まで続く